

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201542		
法人名	医療法人梓誠会 梓川診療所		
事業所名	グループホームあずさ小町		
所在地	長野県松本市梓川梓2344番地1		
自己評価作成日	平成29年12月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhvu_detail_2017_022_kani=true&JigvosvoCd=2070201542-00&PrefCd=20&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成30年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○ 年間行事の計画を立て、日々の楽しみを感じていただけるよう季節の行事、お花見、公園までの散歩、お菓子屋さんでのお茶会、落語等のボランティアの方々と交流を図りながら楽しんでいます。</p> <p>○ 花や野菜を育て、収穫の喜びや季節を感じていただいています。</p> <p>○ ご利用者と一緒に月1回の食事づくりを実施し、作ることや食べることを楽しんでいます。</p> <p>○ ご利用者のやりたい気持ちや役割を持ちたい気持ちを大切に、家事、掃除、縫物、編み物などの作業をしていただいています。</p> <p>○ 施設でのファッションショーのモデルやご利用者と職員合同の合唱団の参加をするための練習をすることで目標を持っていただいています。</p> <p>○ 食事を摂りづらいご利用者の方に、歯科医や言語聴覚士と連携し口腔マッサージを実施し食事をしやすくなるようにしています。</p> <p>○ ターミナルケアに力を入れています。ご家族、医療、職員との連携にて安心して終末期を迎えることができるように支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>このグループホームは、「一人ひとりが、人生の最終章にふさわしい生き方が出来る施設を目指す」と理念に掲げて、利用者が自分の最期を迎えるまでの期間を、一曲を思い通りに奏でて終わるように、豊かに過ごすことができるいろいろな工夫をしてくれている。</p> <p>ターミナルケアに備えて、同一法人の診療所の医師とグループホームの看護師・職員との医療の連携を密接にしている。そして、利用者の食事摂取に留意しながら、楽しい食事づくりや会食を計画したり、利用者の気持ちを高めながら、ファッションショーのモデルや合唱団の一員として輝くことのできるイベントを計画し実施し、効果をあげている。</p> <p>このような工夫を展開できているのは、理事長や管理者のリーダーシップのもと、地道な職員の努力が実を結んできているからだ考える。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが集まるエントランスホールに理念を掲示し、毎朝の朝礼時に皆で音読し、日々の仕事につなげています。	「一人ひとりが人生の最終章にふさわしい生き方が出来る施設を目指す」という理念を基に、職員は利用者のその人の個性や介護のレベルに合わせて、それぞれが活動し、生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日には散歩したり、お菓子を買に行ったりしてして近所の方と挨拶を交わしています。梓川西保育園の行事に参加したり、他のグループホームの行事に参加したりして、交流しています。地域のボランティアの方々の協力を得て、外出や地域の行事への参加を支援しています。	保育園の運動会に参加したり、中学生の体験学習を迎えたりして交流を継続している。また、地域のボランティアの方々の協力を得て、運動会に付き添ってもらったり、出店を出してもらったり、行事食のお手伝いをしてもらったりして、交流の輪を広げている。	さらに、地域との交流の輪を広げることが望まれる。
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	梓川中学生の体験学習を受け入れたり、ご家族にグループホームのイベントに参加していただいたりして、認知症の方の理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で実際のサービスの取り組みを話し合い、その内容をミーティングで取り上げてサービス向上に活かしています。	地区の組長に参加を呼びかけている。地域包括支援センターの職員、民生委員、家族代表の参加を得て、グループホームの様々な問題を話し合ってきている。最近では、栄養補助食品やターミナルケアについての話し合いで盛り上がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、包括支援センターの職員や民生委員の方に来ていただき、事業所のケアサービスの取り組みを伝えたり、民生委員の方々に協力いただき、行事や防災訓練に参加していただいています。	運営推進会議に参加してもらったりするだけでなく、「便り」を配布したり、オレンジプランの推進に協力して、オレンジメイトの活動に積極的に参加したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内、全ての施錠はせず、常に開いています。身体拘束はせず、付き添ったり見守ったりして安全確保をしています。	身体拘束の事例はない。毎年、身体拘束をしないケアについての勉強会を開いて周知している。また、虐待防止については、日常生活の中で問題となりそうな言葉遣いを注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会を通じて全員の職員が学ぶ機会を設けています。ミーティングで問題点などを話し合い防止に努めています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修会に参加して権利擁護についての理解を深めています。相談があれば活用する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせや入居希望者の方には施設に来ていただき、施設の説明や入居に関する書類、家族の希望をお聞きしています。、契約時に十分な説明を行っているので、納得されています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との対話を大切にし、話し合う機会を持つよう「意見箱」を設置しています。家族会の時に意見、要望(車いす対応した車で帰宅する等)を聞き、ミーティングで話し合い、支援に繋げています。	4月、8月、12月の年3回、お花見や夏祭り、クリスマス会の行事の食事に合わせて家族会を開いている。日曜日に設定して、家族関係者の参加を広く呼びかけてきているので、多くの参加者がある。また、防災やターミナルケアなどの具体的な話題について話し合い、成果をあげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで職員の意見を聞き、管理者と主任が法人内の各部署の責任者会議に参加し、全体の問題として話し合っています。	職員は、各種委員会で運営に参加し、利用者の担当を通してケアについて関わっている。月1回のミーティングでは、運営やケア(防災や嚥下など)について積極的に話し合っている。また、朝、夕、遅番の1日3回の打ち合わせを通して、共通理解を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員へのアンケート調査や相談役の面談を通じて職場環境の改善を行っています。働きやすい職場環境のための講習会や勉強会を行っています。		
		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会や内部の勉強会にはなるべく多くの職員が参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの方々と合同音楽会などの行事を通して、交流する機会をつくっています。また、お互いの運営推進会議に出席しています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や施設見学で、ご本人の要望や希望を取り入れて、安心して安全な生活を送っていただけるよう努めています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談や施設見学で、ご家族の要望や困難な状況を伺い、関係づくりに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の望むサービスの提供をするとともに、ご家族の支援もしていきます。また、ご本人の身体の状況を見ながらサービスの計画を立てています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に役割を持っていただき、ご利用者同士が協力し合いながら家事仕事や配膳、カラオケなどの活動に参加することを通して、職員も一緒に楽しみながら暮らすことができる関係になっています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に夏祭りやクリスマス会、ファッションショーなどのイベントに参加してもらったり、パンづくりなどを一緒に楽しんでもらったりしています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のご家族やご兄弟、姉妹、近所の方などとの面会がゆったりとくつろげ、楽しい時間となるように努めています。また、ご家族との外出、外泊の機会を設けています。地域の美容室、お菓子屋への買物に出かけられるように支援しています。	家族、親戚の方々の訪問や面会を大事にして、ゆっくり話ができるように支援している。また、お盆やお正月の帰宅を勧めたり、家族との外泊、外食を勧めたりしている。そして、機会があれば地域の美容室への通院、お菓子屋への買物に出かけられるようにしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の家事仕事や作業を協力して行っていたり、集団レクリエーションや誕生日会、昼食づくり、おやつづくりを通してご利用者同士が関わり合い、触れ合って、よりよい関係がつかれるように支援しています。	

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談があれば支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とゆっくりと話ができる時間をつくり、希望や意向をお聞きし、それらを「個別記録」に記入し、カンファレンスを行い、本人本位に検討しています。	「個別記録」の記録の仕方を変えて、利用者の希望や意向などを特記事項に書くことによって、やりやすくなってきた。この記録を基に、評価し、カンファレンスを行い、本人本位に検討し、介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等の情報収集を行い、職員間で把握し、その人らしい暮らしができるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの様子を観察し、現状の把握に努め、各自のペースに合わせた生活ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者一人ひとりの課題やケアについて、ご本人の言葉、意思を尊重し、ミーティングやカンファレンスを通して職員が意見を出し合い、介護計画を作成しています。	利用者一人ひとりに担当職員を決め、「個別記録」の記入を参考に「評価票」をつくり、職員全員参加のカンファレンスで話し合い、「ケースカンファレンス」にまとめ、介護計画を作成している。この経過を繰り返し、本人本位の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「個別記録」に日々の様子やケア等を記入して共有を図り、口頭でも伝え、実践につなげています。ミーティングやカンファレンスを行って介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の診療所や老人ホーム・リハビリテーションと連携して、ご本人が希望するサービスが利用できるようにしています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々と近くのお菓子屋に行きティータイムしたり、落語を聞きに図書館へ行ったり、保育園児の遊んでいるところを見学したり、家族の方と美容室に行ったりするなどして楽しんでいます。また、今年は同一法人施設でのファッションショーでモデルとなって参加し、満足感を味わいました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を大切に、24時間体制で安心した生活ができるように支援しています。また、ご家族の希望で今までのかかりつけ医を選択できるように支援しています。	同一法人の診療所がすぐ隣接しており、医師の往診の他に見回りが頻繁にある。そして、管理者が看護師を兼ねており、毎日のバイタルチェックも行っている。また、市民病院とも連携して、様々な場面にすぐ対応できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時の時や日々の気づきなどを職場内の看護師に相談し、同一法人の診療所の医師につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関にお見舞いに行き、病名や退院後の相談ができるように努めています。また、施設側からの記録や内服薬などの情報提供を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される当初より終末期のあり方をご本人、ご家族と医師、職員との話し合いを行い、方向性を共有しています。また、ご本人やご家族にとって最良の支援となるように終末期のあり方を学び、支援しています。	利用者が入所した時点からマニュアルにそって、ターミナルケアについての共通理解を得るように努めている。そして、終末期を迎える場合は、延命治療をせず、緩和ケアを中心に、1階のエントランスホールにベッドを置いて、見守りを続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、年1回の救急手当の勉強会に参加するなどして、職員全員が対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、同一法人施設の訓練に参加したり、グループホーム内での訓練にご利用者やボランティアの方も参加していただいたりして実施しています。	5月と9月の年2回避難訓練を行い、3月には消火器やAEDの使い方の講習を行っている。地域の方の参加を得たり、同一法人内の近隣の老人ホームの職員の援助を得たりするなど、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの目線に立ち、お名前をお呼びしています。ご利用者からお話を聞き、教えていただくことも多くあります。そのような時には、ご利用者の誇りやプライバシーに配慮しています。	利用者一人ひとりを受容することを大切にしている。声をかけられなくても、トイレに行きたいのか、口がさびしいのか、暑いのか、寒いのか、それぞれに対応できるようにしている。人形を抱っこしたがる利用者には、そうすることによって認められ、落ち着いた自分なりの生活が送れるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を共感を持って傾聴し、それら(日々の家事仕事やカラオケ、外出、帰宅等)が生活の中で実現できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、ご本人に合わせた暮らしを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝のお化粧品や整容の習慣を支援したり、2ヶ月に1度の散髪やご本人希望の美容院での毛染めやカットなどを支援したりしています。お化粧品やマニキュアをして、おしゃれして外出したり、イベントに参加したりできるようにしています。季節に応じ衣服の提供をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べられる量や形など一人ひとりに合った食事の提供をしています。配膳や片付け、洗い物も各自で行っていただいています。昼食づくりやおやつづくりを職員と一緒に楽しみながら行っています。	利用者が重度化し、食事をする時は付きっきりの介護が必要の方が2名おり、また、ミキサーでペースト状にしたり、刻み食にする方が5名いるので、それぞれに合わせて支援している。このような状況で、朝食は職員が作っているが、昼食・夕食は業者委託にしている。一月に一度は、利用者と職員が一緒になってつくる、昼食やおやつを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量を表に記入して、一人ひとりの体調を把握しています。食べられない時は、形を変えたり、ご本人の好きなものをご家族の協力で用意したりしています。また、栄養補助食品などを提供して、体力維持ができるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守りをし、自分でできる方には声かけし、できない方には職員が支援しています。入れ歯は錠剤で消毒洗浄しています。歯科の往診が月1回あり、口腔ケアが充実しています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その方の排泄パターンを把握し、時間で声かけを行なっています。2人介助で立位保持が可能な方でもトイレで排泄できるよう、その方に合わせた支援を行っています。	利用者が重度化してきているために、トイレでの排泄ができなくなっている方が見られる。しかし、トイレでの排泄自立に向け、排泄時間での声かけを行ったり、なんとか立てる利用者には、2人介助でトイレでの排泄を支援するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらえるように毎日牛乳を飲んだり、個人によってはヨーグルトを飲んだりしています。毎日の体操、活動などなるべく体を動かすことによって予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、木曜日、日曜日に実施しています。ご利用者の身体状態に応じて、一般浴、特浴でゆっくりと自分のペースで入浴できるように支援しています。	利用者が重度化してきているために、隣接の老人ホームの機械を使った特浴を、木曜日、日曜日に利用させてもらっている方が4人いる。その他の方は、同じ曜日にグループホーム内で一般浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝、日光浴をして、夜、安眠していただけるようにしています。また、その方の体調によって、時間に関係なくいつでも横になれようようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服薬の状態を記録に残していません。主治医と連携してご利用者の担当者から説明を受け、職員全員で理解し合って、服薬のマニュアルにそった支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが毎日の洗濯物たたみ、洗い物、玄関掃除など家事仕事での役割を持って生活していただいたり、趣味の編み物やぞうきんづくりなどをしていただいたりしています。また、今年の施設イベントのファッションショーや小町合唱団(ご利用者と職員)に参加することや、保育園児と交流することに支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご近所に散歩に出かけて挨拶を交わしたり、保育園児の遊んでいる姿を見学したりしています。ボランティアの方々と花見やティータイムに出かけたり、落語を聞きに行ったりしています。ご家族と協力し、帰宅支援をしています	ふだんは、近所を散歩したり、日光浴を楽しんだりしている。また、ボランティアの協力を得て、花見をしたり、ティータイムに行ったり、図書館で行われた落語を聞きに行ったりして楽しんでいる。車椅子対応の車を用意して、帰宅がスムーズにできるようにしている。	

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は事業所側で行っています。ご本人の希望に応じて小遣いを預かり、いつでも使用できるようになっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、常に電話をかけられます。お礼の手紙や電話での会話の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が木材を使用しており、共有スペースは大きな窓により明るく季節を感じることができ広いスペースです。床暖房やエアコンで施設全体の温度管理を行っています。室内は季節の花を飾ったり、曆に合わせた飾りつけをしています。ご利用者の作品の展示も行っています。	玄関を入ると広がっているエントランスホールの片隅にはベッドが置かれ、ターミナルケアを待つ利用者がいつでも使用できるようにしている。ダイニングやフリースペースも広く、床暖房やエアコンがきいており、居心地よく、季節に合わせて花や飾りなどで明るくなっている。フリースペースは、カラオケをしたり、テレビを見たり、洗濯物をたたんだりするくつろぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはテレビやソファがあり、仲間同士でカラオケをしたりやテレビで相撲を見たりしています。ベッドやソファで休んだり、思い思いに過ごしたりすることができます。くつろげる場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は毎日清掃し、衛生面に配慮しています。ご本人の使い慣れた備品を持ち込み、使用していただいています。ご家族の写真や贈り物を飾っている方も見えます。	2階にある居室は、利用者それぞれが持ち込んだり、配置したりできる備品で居心地よく過ごせるようになっている。居室は清掃委託の業者によって毎日清掃され、床暖房やエアコンが利用できるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は安全に配慮し、見守りや声かけでお互いの疎通をとっています。トイレや居室は分かりやすい言葉で表示し、自律した生活が送れるようにしています。一人ひとりに合わせ、工夫した部屋割りをしています。		